東京からこんにちは

お国自慢はコミュニケーションツール

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

東京海上キャピタル株式会社　代表取締役社長
深沢英昭さん
Hideaki Fukazawa

経　歴

熱海市生まれ。東京大学経済学部卒業、1978年、日本長期信用銀行入行、M&Aアドバイザリー業務、事業リストラを通じた債権回収、事業再建支援に従事。その後、日本興業銀行、みずほ証券を経て、2004年、東京海上キャピタル株式会社入社、05年、代表取締役社長に就任。58歳。
武州製薬、MS&Consultingの各取締役を兼ねる。日本プライベート・エクイティ協会副会長。
http://www.tmcap.co.jp/

経営者の〝悩み相談室〟

話していて安心感を与える人だ。東京海上キャピタルは1991年に設立された投資ファンドの運用会社。非公開、非上場の中堅、中小の株式会社を投資先にしている。

ファンドビジネスというと、専ら最新のテクノロジーを駆使するイメージがあるが、「コンピューターでがちゃがちゃやるのと違って、極めて泥くさいというか人間くさい仕事なのです」という。

「中堅、中小企業経営者の一番の悩みは、大企業に比べ人材の層が薄く、それをどう確保していくかなんですね。ですから一種の〝悩み相談室〟になって、迷いや問題点をしっかり聞き出せる関係を築くことが仕事の出発点です」。

人材投入や店舗増設などで投資先の基盤をより強固にし、事業価値を高めて売却する。主に年商20億円～200億円程の会社を対象に、これまでに子供服メーカーの三起商行（ミキハウス）など15社に投資し、全案件で利益を上げている。

幼稚園入園前に熱海市から静岡市に転居し、高校まで過ごした。「東京に住む人の多くは地方出身者。初対面でも地方の話を、例えば静岡おでんや三保松原の話をしたりすると随分盛り上がります」。そのためには「お国自慢できるくらい、自分のまちとか県のことをちゃんと知っておくことです。意外に役に立ちます。ある意味、コミュニケーション、意志疎通ですかね」と話す。

標高差日本一の県都

一方で、静岡市には全国に誇れることがたくさんあり、ホームページ（HP）でどんどんPRすればいいと指摘する。その一つが標高差。「3千メートル級の南アルプスから海抜がゼロに近い海岸部まである。多分、標高差日本一の県庁所在地じゃないでしょうか」。市民の自転車利用は全国と比べても多いことから、日本一の標高差を体験するサイクルツアーを提案する。「こんなことができる都市って他にないと思いますね」。

外国人観光客への情報提供の充実も求める。「市のHPを拝見しましたが、外国語での情報発信が不十分ではないかと感じました。エマージェンシーの時にはこうしてください、とか示すだけでも違うと思います」。

「人が、まちが温かいところがいいですね」。静岡に惚れ込んでいる。

（文・写真：長田義明）

※レポーターの長田義明さんは、静岡市出身のジャーナリストで、元時事通信社解説委員。